

5 結果 令和4年度「食に関するアンケート」【校種別集計】<児童生徒> のとおり

6 結果の概要・考察等

○問1 学校給食が「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答した割合は、合わせて9割以上前年度よりわずかに増加し、過去最高(図1)

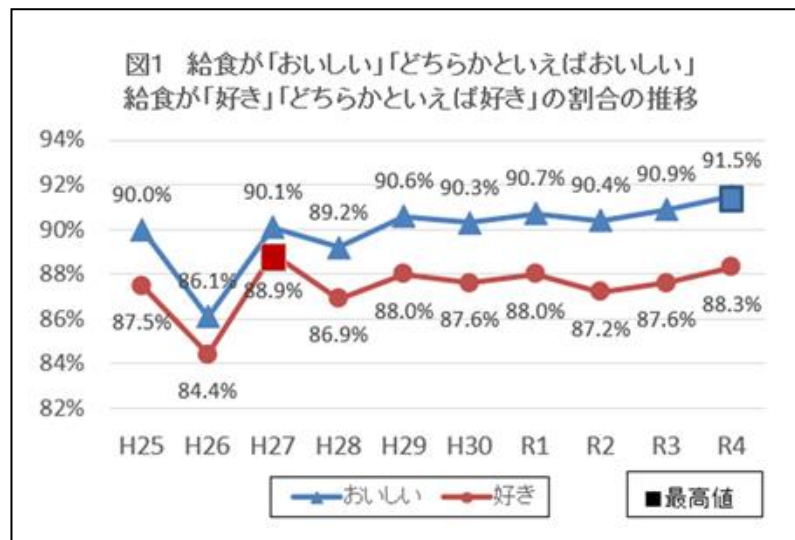
90.4% (R2) →90.9% (R3) →91.5% (R4:前年度比0.6P増)

- ・小学校では92.4% (前年度比0.1ポイント増)、中学校で87.6% (同2.0ポイント増)、特別支援学校では95.5% (同0.7ポイント減)の児童生徒が、学校給食を「おいしい」「どちらかといえばおいしい」と回答し、過去最高であった。

○問2 学校給食が「好き」「どちらかといえば好き」は合わせて8割以上、前年度よりわずかに増加(図1)

87.2% (R2) →87.6% (R3) →88.3% (R4:前年度比0.7P増)

- ・小学校では89.3% (前年度比0.3ポイント増)、中学校で84.2% (同1.4ポイント増)、特別支援学校では95.1% (同2.4ポイント増)の児童生徒が、学校給食を「好き」「どちらかといえば好き」と回答。すべての校種で増加した。



○問3 学校給食を「好き」「どちらかといえば好き」と答えた理由は、「おいしいから」が最も多く7割以上(過去最高)一方、「みんなと一緒に食べることができるから」は5割以下(過去最低)

「おいしいから」 69.3% (R2) →71.5% (R3) →73.0% (R4:前年度比1.5P増)

「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」

54.5% (R2) →53.8% (R3) →54.5% (R4:同0.7P増)

「家で食べられない料理を食べることができるから」

52.1% (R2) →50.9% (R3) →52.4% (R4:同1.5P増)

「みんなと一緒に食べることができるから」

57.4% (R2) →51.2% (R3) →48.9% (R4:同2.3P減)

「好きなものを食べることができるから」

40.2% (R2) →42.7% (R3) →45.7% (R4:同3.0P増)

- ・次いで多かった理由は、「栄養のバランスを考えた食事を食べることができるから」54.5%、「家で食べられない料理を食べることができるから」52.4%と続く。
- ・前年度に比べ最も割合の変化が大きかった理由は、「好きなものを食べることができるから」で3.0ポイント増加。小学校で1.9ポイント、中学校では7.3ポイントともに増加、特別支援学校では2.5ポイント減少した。

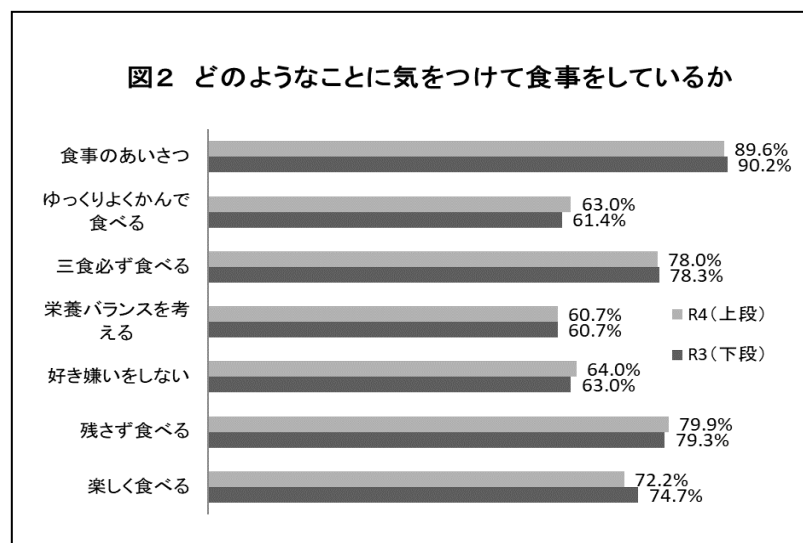
(学校給食について)

問1・問2の結果より、多くの児童生徒が学校給食を肯定的にとらえていることがうかがえる。問3の学校給食が好きな理由についても、7割以上の児童生徒が「おいしいから」、5割以上の児童生徒が「栄養バランスを考えた食事を食べることができるから」「家で食べられない料理を食べることができるから」と回答している。一方「みんなと一緒に食べることができるから」と回答した児童生徒は、初めて5割以下となり過去最低(R2まで約6割程度)となっている。前年度と同様、新型コロナウイルス感染症対策として、スクール形式による会食や黙食等が原因の一つとして考えられる。

今後も引き続き、地場産食材やだしを活用した給食、児童生徒等が考案した給食など、学校給食の充実、併せて給食を教材とした食に関する指導の充実を図り、学校給食への関心を高めていくことが重要である。また、感染症対策に配慮しながら、共食の良さが感じられる環境・雰囲気作りが求められる。

○問4 食事で気をつけていることに「食事のあいさつ」の回答が最も多く、前年度同様9割程度(図2)

- ・前年度に比べ最も割合の変化が大きかった項目は、「楽しく食べるようにしている」で2.5ポイントの減少。小学校で3.0ポイント、中学校では1.0ポイントともに減少、特別支援学校では1.6ポイント増加した。
- ・小学校では、前年度に比べほとんどの項目で減少。増加した項目は、「ゆっくりよくかんで食べるようにしている」で1.4ポイント、「好き嫌いをしないようにしている」で0.2ポイント増加した。
- ・中学校では、前年度に比べほとんどの項目で増加。減少した項目は、「楽しく食べるようにしている」で1.0ポイント減少した。
- ・特別支援学校では、前年度に比べほとんどの項目で増加。減少した項目は、「残さず食べるようにしている」で0.2ポイントわずかに減少した。



(食に関する意識について)

新型コロナウイルス感染症の影響で、スクール形式による会食や黙食、衛生管理等「新しい生活様式」による給食が3年近く続いていることから、「楽しく食べる」ことへの意識が薄まってきているのではないかと考える。また、問3の「みんなと一緒に食べることができる」との関連性も注視していく必要がある。

今後も、規則正しい食生活や栄養のバランス等、栄養教諭を中核とした食に関する指導の充実と併せて、家庭への情報提供や啓発活動を行い、児童生徒の食への興味関心を高め、望ましい食習慣の形成を図ることが求められる。

○問5 地場産物には何があるか「知っている」と回答した割合は、県全体で7割程度、前年度より増加  
発達段階や校種による差が顕著

「知っている」 68.1% (R3) →70.2% (R4：前年度比 2.1P 増)

- ・小学校低学年では 54.9% (前年度比 1.1 ポイント増)、小学校高学年では 80.1% (同 3.4 ポイント増)、中学校では 81.3% (同 3.3 ポイント増) で増加したが、特別支援学校では 28.7% (同 10.5 ポイント減) で大幅に減少した。

(地場産物について)

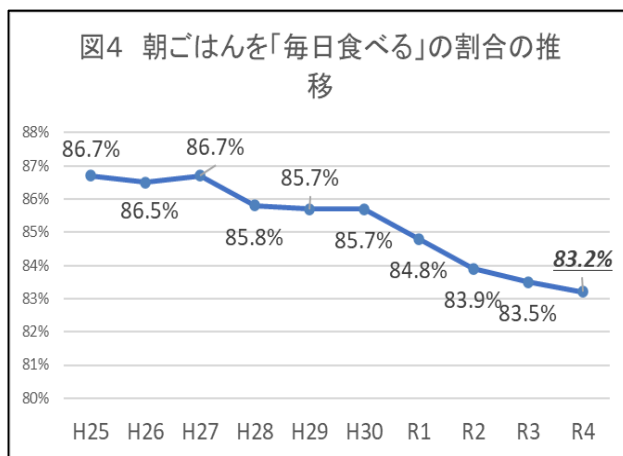
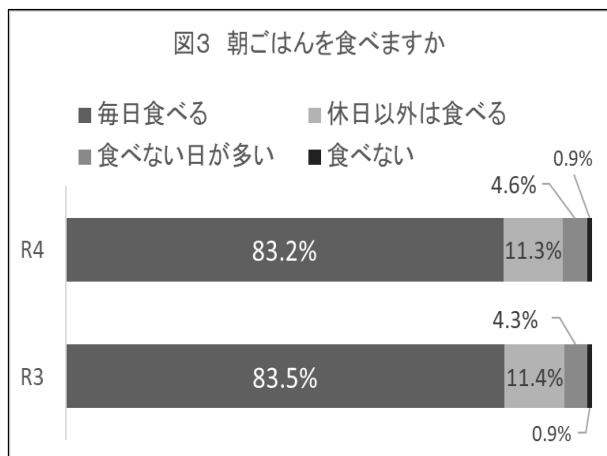
昨年度より追加した調査内容である。国の第4次食育推進基本計画（令和3～7年度）における食育の推進に当たっての目標の一つに、「学校給食における地場産物を活用した取組等を増やす」が掲げられている。また、県の教育振興基本計画（令和2～6年度）の施策の一つにも、「地元の食文化を理解するため、地場産食材を使用した給食を提供」等、食育や地場産給食の推進があげられている。そこで、給食での提供はもちろんのこと、食育に関しては、栄養教諭や県学校給食会等が連携し、地場産物を紹介する動画教材等を作成・活用した取組も進めているところである。

今後も引き続き、県や地域の農林水産物を活用した給食を計画的に取り入れ、給食の時間の放送等による食材や生産者の紹介、体験活動、ICTを活用した家庭へ情報発信等、様々な取組や啓発を通して、児童生徒の地場産物に対する理解を、校種や発達段階に適した方法で深めていく必要がある。

○問6 朝ごはんを「毎日食べる」と回答した割合は前年度よりわずかに減少(図3)

「毎日食べる」 83.2% (R4)：84.5% (小)、78.0% (中)、90.8% (特)

- ・「毎日食べる」と回答した児童生徒の割合は 83.2% で、前年度に比べ 0.3 ポイント減少。小学校では 0.3 ポイント減少、中学校では 0.6 ポイント減少、特別支援学校では 1.3 ポイント減少した。また「休日以外食べる」と回答した割合は、中学校 0.3 ポイント、特別支援学校で 0.2 ポイント増加している。
- ・年次推移では、「毎日食べる」割合は減少傾向(図4)。「食べない」割合は 1%未満で横ばい。

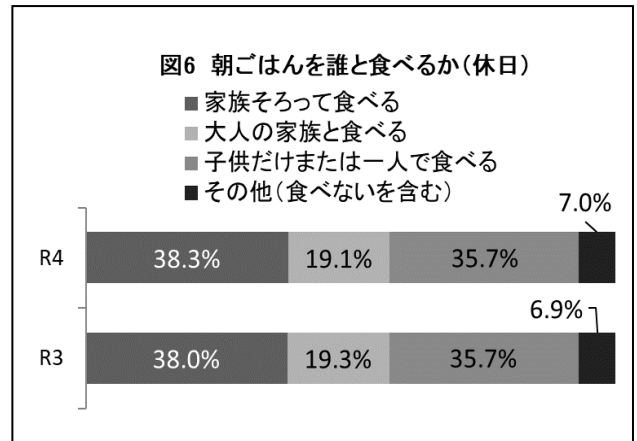
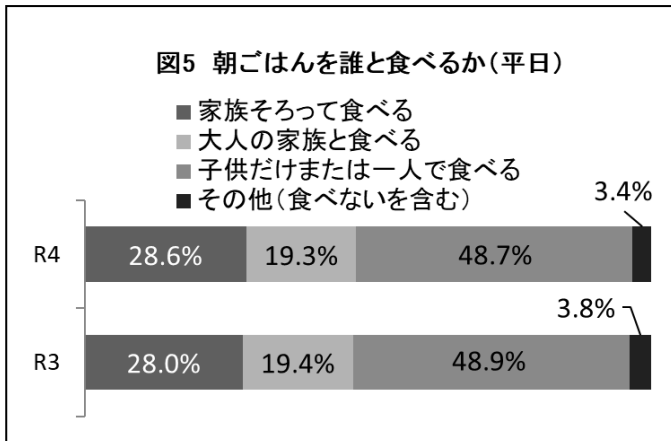


○問7 朝ごはんを「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合は、前年度同様  
平日で5割弱、休日で6割弱(図5、図6)

平日 48.1% (R2) →47.4% (R3) →47.9% (R4：前年度比 0.5P 増)

休日 58.1% (R2) →57.3% (R3) →57.4% (R4：前年度比 0.1P 増)

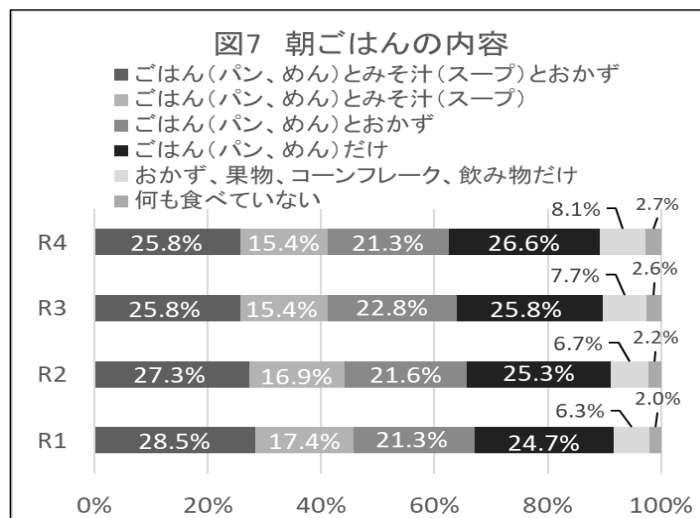
- ・小学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」と回答した割合がわずかに増加、「子どもだけで、または一人で食べる」の割合はわずかに減少した。
- ・中学校、特別支援学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合がそれぞれ減少、「子どもだけで、または一人で食べる」の割合は増加した。



○問8 朝ごはんの内容は「ごはん+汁物+おかず」は減少傾向、「ごはんだけ」「おかず、果物、飲み物等だけ」は増加傾向(図7)

「ごはん+みそ汁+おかず」	25.8% (R4) : 25.4% (小)、26.8% (中)、30.0% (特)
「ごはんだけ」	26.6% (R4) : 27.7% (小)、23.1% (中)、20.3% (特)
「おかず、果物、飲み物等だけ」	8.1% (R4) : 8.2% (小)、8.1% (中)、6.0% (特)

- ・「ごはん+みそ汁+おかず」と回答した児童生徒の割合は、前年度同様。小学校は同様、中学校で0.3ポイント、特別支援学校で0.2ポイントともに減少した。
- ・「ごはんだけ」と回答した児童生徒の割合は、小学校で1.3ポイント増加、特別支援学校で3.8ポイント増加した。中学校で0.9ポイント減少した。
- ・「ごはんだけ」「おかず、果物、飲み物等だけ」「何も食べない」と回答した児童生徒の割合は合わせて、小学校中学校ともに4割近く、特別支援学校では約3割近くいる。



(朝ごはんについて)

朝食摂取状況や共食状況、朝食内容については前年度と比較して、「毎日食べる」児童生徒の割合がわずかに減少した。特に中学校、特別支援学校では、平日休日ともに「家族そろって食べる」「大人の家族と食べる」と回答した割合がそれぞれ減少、「子どもだけで、または一人で食べる」の割合は増加した。主食だけや単品の朝食をとる児童生徒が増加している。

今後も、子どもたちが適切な食事を摂取し、自分の健康を守ることができるよう、「朝食摂取」と「栄養バランスのとれた食事」の重要性を指導していくとともに、児童生徒が一人でも朝食を準備することができるようなメニューの紹介や家庭への情報提供、啓発を行っていくことが重要である。

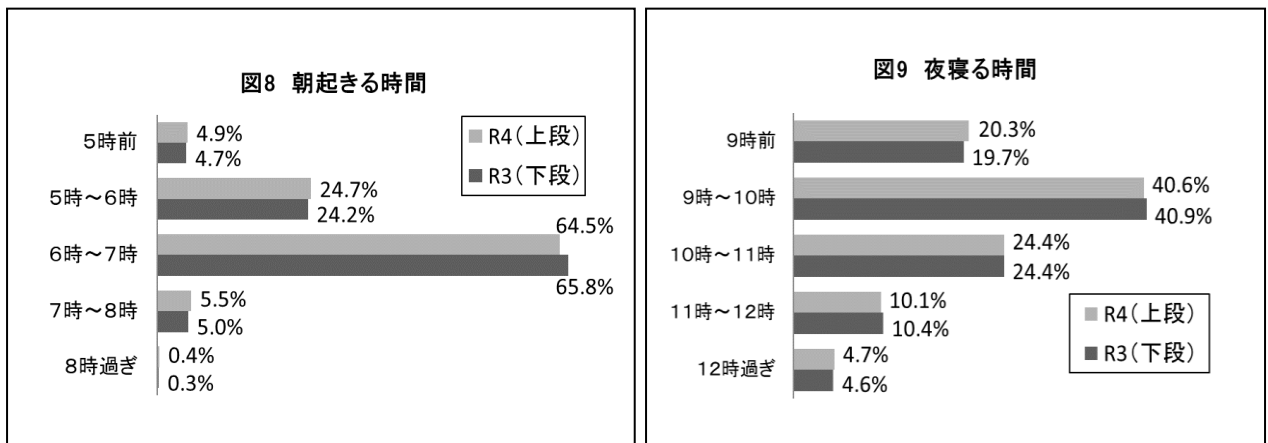
○問9 小中学校の9割以上が「5時前～7時前」に起床、「6時～7時前」は前年度よりわずかに減少(図8)

小学校「5時前～7時前」96.2% (R2) →95.9% (R3) →95.4% (R4)  
 「7時～8時過ぎ」3.8% (R2) → 4.1% (R3) → 4.5% (R4：前年度比0.4P増)  
 中学校「5時前～7時前」91.8% (R2) →90.7% (R3) →89.6% (R4)  
 「7時～8時過ぎ」8.2% (R2) → 9.3% (R3) →10.5% (R4：前年度比1.2P増)

夜寝る時間は「10時～12時過ぎ」が前年度より増加(図9)

小学校「9時前～11時前」95.1% (R2) →94.5% (R3) →94.5% (R4)  
 「11時～12時過ぎ」4.9% (R2) → 5.6% (R3) → 5.5% (R4：前年度比0.1P減)  
 中学校「9時前～12時前」84.2% (R2) →83.6% (R3) →82.7% (R4)  
 「12時過ぎ」15.8% (R2) →16.3% (R3) →17.3% (R4：前年度比1.0P増)

- ・朝起きる時間について、「7時～8時過ぎ」と回答した割合が、前年度に比べ、小学校0.4ポイント、中学校1.2ポイントともに増加した。
- ・夜寝る時間について、小学校では「11時～12時前」と回答した割合が、前年度に比べ0.1ポイント減少、中学校では「12時過ぎ」と回答した割合が1.0ポイント増加した。



(起床時間・就寝時間について)

小学校では前年度と比較し、わずかに起きる時間が遅く、寝る時間はほぼ同様となっている。中学校では、起きる時間・寝る時間ともに遅くなっている。小学校中学校において、睡眠時間が短い児童生徒が一定数おり、中学校においては、やや増加している。このことは、朝食摂取や朝食内容にも影響を及ぼしていると考えられる。

毎日元気に学校生活を過ごすためにも、今後も引き続き、各教科や学級活動において「早寝早起き朝ごはん」の大切さを指導していくとともに、手軽に作れる朝ごはんのメニュー等、家庭への情報提供、さらなる啓発が必要である。

7 今後の取組(福井県教育振興基本計画(令和2～6年度)の施策より一部抜粋)

○食育の推進

- ・給食の時間や各教科等において、本県独自の食育教材「ふくいこども食育チャレンジ～第一次改訂版～」(令和3年3月)を活用し、栄養教諭を中核とした学校における食育を推進
- ・栄養教諭等と児童生徒が協力して考案した「ふくいっ子アイデアメニューコンテスト」を実施
- ・募集した朝ごはんや学校給食メニューは、HP等で学校や家庭、地域へ広く周知
- ・伝統的な食文化への理解を深めるため、だし等を使った和食給食による食育を推進
- ・「早寝早起き朝ごはん」の指導等とあわせて「共食」の習慣づくりを推進

○地場産給食の推進

- ・地元の食文化への理解を深めるため、地場産食材を使用した給食を提供
- ・地場産食材に関する体験活動や授業を行い、学校給食で味わうことにより、地場産食材や農林漁業に対する理解を促進